

平成23年1月17日(月) 10:30-18:30

開始時間	演題番号	研究者名	演題	演者	座長
10:30			研究代表者 挨拶 (水澤 英洋)		
10:35			厚生労働省健康教疾病対策課 御挨拶		
10:40	1-1	中村好一	クロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス登録状況および結果について (1999年4月~2010年8月)	定金敦子	水澤
10:50	1-2	金谷泰宏	プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究	金谷泰宏	水澤
11:00	1-3	田村智英子	プリオン病カウンセリング困難事例の検討	田村智英子	水澤
11:10	1-4	山田正仁	CJDサーベイランスにおけるプリオン病発症と加齢の関連についての検討	坂井健二	水澤
11:20	1-5	森若文雄	北海道地区のCJDサーベイランスの動向	森若文雄	山田
11:30	1-6	志賀裕正	これまでのサーベイランス調査で経験した問題事例	志賀裕正	山田
11:40	1-7	西澤正豊	群馬、長野、新潟3県におけるプリオン病サーベイランスの現状	横関明男	山田
11:50	1-8	黒岩義之	神奈川・静岡・山梨県地域におけるプリオン病の疫学的な実態	児矢野繁	山田
12:00	—	13:00	研究者会議口昼食		
13:00	1-9	犬塚貴	岐阜県におけるプリオン病の実態	林祐一	西澤
13:10	1-10	武田雅俊	近畿ブロックのプリオン病疑い患者の疫学的実態	吉山顕次	西澤
13:20	1-11	阿部康二	中国四国地区におけるプリオン病サーベイランス	松浦徹	西澤
13:30	1-12	村井弘之	九州・山口・沖縄地区におけるプリオン病の特徴	村井弘之	西澤
13:40	1-13	北本哲之	CJDサーベイランスの遺伝子検査	北本哲之	黒岩
13:50	1-14	調漸	ヒトプリオン病における髄液中のバイオマーカーの検討 (既存マーカーとReal-time QUIC法を利用した検討)	佐藤克也	黒岩
14:00	1-15	三條伸夫	緩徐進行性の四肢感覚障害を呈しMRI画像にて両側視床病変を認めた57歳女性例	東美和	黒岩
14:10	1-16	原田雅史	Creutzfeldt-Jakob病の病変判定における標準化拡散強調画像の有用性に関する読影研究 (中間報告)	藤田浩司	黒岩
14:20	—	14:35	コーヒーブレイク		
14:35	1-17	斉藤延人	ヒト由来乾燥硬膜の移植後の組織吸収に関する文献的検討	國井尚人	斉藤
14:45	1-18	太組一朗	CJDサーベイランスにおける脳神経外科領域の動向	太組一朗	斉藤
14:55	1-19	古賀惟一	超好熱菌由来の耐熱性プロテアーゼによるプリオン分解を利用した汚染除去剤開発	古賀惟一	斉藤
15:05	1-20	村山繁雄	CJDサーベイランス病理ルートの提言 - 高齢者ブレインバンクネットワークの経験より	村山繁雄	斉藤
15:15	1-21	高尾昌樹	プリオン病におけるMRI-Autopsy imagesと剖検対比の試み。—プリオン病における剖検の重要性、推進のために—	高尾昌樹	村山
15:25	1-22	三條伸夫	わが国の遺伝性プリオン病における髄液所見と臨床経過・病理所見の関連性について	三條伸夫	村山
15:35	1-23	岩崎靖	プリオン蛋白遺伝子コドン180点変異を伴うクロイツフェルト・ヤコブ病の臨床病理学的特徴	岩崎靖	村山
15:45	1-24	雪竹基弘	当院で経験したGerstmann-Sträussler-Scheinker 症候群 (GSS) 13症例の検討	岡孝之	村山
15:55	—	16:10	休憩		
16:10	1-25	堂浦克美	プリオン病の予防・治療手段に関する研究	逆瀬川裕二	湯浅
16:25	1-26	松田治男	髄液FABP検査系の信頼性の再確認	松田治男	湯浅
16:40	1-27	新竜一郎	Real-time QUIC法を用いた髄液中異常型プリオンタンパクの検出によるクロイツフェルトヤコブ病診断	新竜一郎	湯浅
16:55	1-28	竹内敦子	リコンビナントPrPcを用いたPMCA法によるヒトプリオンの増幅	竹内敦子	湯浅
17:10	1-29	黒岩義之	プリオン病患者におけるFDG-PET検査について	岸田日帯	調
17:25	1-30	佐々木真理	CJD早期診断における拡散強調画像の機種間差異: ADC値の検討	佐々木真理	調
17:40	1-31	湯浅龍彦	Creutzfeldt-Jakob病における抗グルタミン酸受容体抗体 —症状との関連と早期診断への展望—	藤田浩司	調
17:55	1-32	山田達夫	髄液中の14-3-3蛋白、Tau蛋白が高値を示した免疫介在性脳症	坪井義夫	調
18:10			閉会		
一般班15分、指定班10分の予定					

(敬称略)

平成23年1月18日(火) 9:00-17:00

開始時間	演題番号	研究者名	演題	演者	座長
9:00	2-1	金子清俊	カルパインによる正常型プリオン蛋白質の細胞内切断	八谷如美	毛利
9:15	2-2	作道章一	プリオン病およびプリオン蛋白質機能における酸化ストレス関与に関する研究	作道章一	毛利
9:30	2-3	坂口末廣	正常プリオン蛋白質過剰発現による細胞死の解析	坂口末廣	毛利
9:45	2-4	堀内基広	クラスリン依存性エンドサイトーシス阻害剤処理によるPrPSc細胞内局在の変化	堀内基広	坂口
10:00	2-5	横山隆	培養細胞におけるプリオン感染に関する研究	横山隆	坂口
10:15	2-6	毛利資郎	プリオンの伝達性に関する研究 ―ヒト化マウスに対するBSE伝達試験―	毛利資郎	坂口
10:30	—	10:45	休憩		
10:45	2-7	田中元雅	酵母プリオンの表現型を決定するオリゴマー構造の解析	田中元雅	堀内
11:00	2-8	桑田一夫	分子シミュレーションによるプリオン立体構造変換過程の研究	桑田一夫	堀内
11:15	2-9	岡明	SSPEサーベイランスの方法に関する検討	岡明	細矢
11:30	2-10	愛波秀男	SSPE発症における地域集積性について	愛波秀男	細矢
11:45	2-11	高須俊明	パプアニューギニア国東部高地におけるSSPE発症リスク、とくにパキスタン国カラチとの比較	高須俊明	細矢
12:00	—	13:00	研究者会議口昼食		
13:00	2-12	野村恵子	亜急性硬化性全脳炎に対するリバビリン治療に関する全国調査	野村恵子	岡
13:15	2-13	市山高志	亜急性硬化性全脳炎におけるインターフェロン濃度の検討	長谷川俊史	岡
13:30	2-14	楠原浩一	SSPEに対するリバビリン脳室内注入療法 ―フィリピンでの単一施設における治療成績―	楠原浩一	岡
13:45	2-15	細矢光亮	ヌードマウス脳内に持続感染した麻疹ウイルスの検討	阿部優作	楠原
14:00	2-16	堀田博	亜急性硬化性全脳炎（SSPE）マウスモデルを用いた神経病原性の研究	井出良浩	楠原
14:15	2-17	網康至	カニクイザル中枢神経への麻疹ウイルス持続感染	網康至	楠原
14:30	2-18	柳雄介	神経系における麻疹ウイルスの感染機構	柳雄介	楠原
14:45	—	15:00	コーヒーブレイク		
15:00	2-19	西條政幸	脳脊髄液のJCウイルス検査を介した日本国内における進行性多巣性白質脳症のサーベイランスおよびデータベースの解析	西條政幸	岸田
15:15	2-20	岸田修二	予後調査からみたPMLならびに治療薬としてのメフロキン投与方法と観察項目の作成	岸田修二	岸田
15:30	2-21	雪竹基弘	同一のメフロキン投与スケジュールで治療した進行性多巣性白質脳症（PML）の検討（2010年における西日本症例を中心に）	雪竹基弘	岸田
15:45	2-22	宍戸一原由紀子	JCウイルスの再活性化と細胞腫瘍化の機序 JCウイルスは脳腫瘍を発生させるのか？	宍戸一原由紀子	澤
16:00	2-23	長嶋和郎	JCウイルス関連蛋白のメチル化遺伝子結合蛋白MeCP2による転写制御の解析	高橋健太	澤
16:15	2-24	澤洋文	ヒト神経系培養細胞におけるナタリズマブのJCウイルス（JCV）増殖性への影	澤洋文	澤
16:30	2-25	奴久妻聡一	HIV-1 Tat のPML型JCV増殖促進と宿主細胞に及ぼす影響	奴久妻聡一	澤
16:45	閉会				
発表10分、討論5分の予定					